



『金額ベースでの補てん』に魅力

〈角田市枝野〉

門馬 希道さん(43)

水稻36畝、麦2畝、大豆3畝を経営しています。

農産物は、収穫量が増えても収入が減少することがあるので、**収入が基準収入の9割を下回った場合に、下回った額の9割まで補てんされる収入保険に魅力を感じました。**

地域では離農が進んでいるため、作業受託により経営面積が増えるにつれ、農繁期の機械トラブルが心配です。**ケガや病気で労働力が十分に確保できず、結果、収穫遅れなどで収入減少が発生することも考えられます。収入保険は、こういったリスクもカバーしてくれるので安心です。**

私の場合、水稻、麦、大豆のそれぞれの共済掛金とナラシ対策の保険料の合計を比較すると、収入保険の保険料の方が安くなりました。

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】



『収入補償』で施設整備や機械更新などの不安を払しょく

〈栗原市若柳〉

高橋 敦司さん(42)

水稻8畝、ビニハウス8棟(850坪)で花苗と野菜苗を生産しています。

苗生産は、**市場での価格変動が大きく収入減少につながる可能性があります。**これまでは収入減少に対する不安から、施設整備や機械の更新といった投資をためらうことがありました。**収入保険に加入することで価格低下などの際に補償されれば、施設整備や機械更新などが不安なくできると思いました。**

比較的自然災害を受けにくいハウス栽培ですが、施設への被害で収穫ができなくなることは大きな不安材料です。

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】



『NOSA I への信頼』が決め手に

〈亘理町吉田〉

永谷 和彦さん(67)

水稻2畝、リンゴ1畝を栽培する果樹農家です。

説明に来てくれたNOSA I 職員が、保険料や補てん金について、**分かりやすくシミュレーションしてくれ、その説明も丁寧だったので、信頼できると感じ加入を決めました。**

昨年10月に台風24、25号が続けて襲来し、リンゴの落下や倒木といった深刻な被害を受けました。今後、このような被害が発生しても、**収入保険で基準収入の9割を下回った場合、補償の対象となるので安心です。**

収入保険は、農業収入全体で判断するので、水稻共済と果樹共済にそれぞれ加入するより、シンプルで分かりやすいと思います。

果樹農家や、小規模でも新しく挑戦する農家の方々に、経営の支えとなる収入保険をお勧めします。

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】

収入保険 ～加入者の声～



『すべての品目が対象』が決め手

〈東松島市赤井〉

齋藤 英彦さん(56)

水稻10畝、ナス、トマトなどの野菜苗

トウモロコシやハクサイを栽培(20㍍×2作)しています。

野菜は、豊作でも価格低下の不安が常にあります。野菜価格安定事業の指定品目になっていない作物も作っているので、販売収入全体を対象にする収入保険への加入を決めました。これからは、新しい品目にも安心して挑戦できます。

収穫期などの繁忙期に病気やケガで動けなくなって、収穫に大きな影響が出るのが心配でしたが、このような要因の収入減少も対象になると聞き安心しました。

将来的に従業員を雇用することになった場合、安定して給与を支給できるよう補償の範囲が広い収入保険は心強いです。

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】



『農業収入全体の補償』なのに今より安い保険料

〈登米市米山町・株式会社 たいら〉

代表取締役 千葉 正規さん(62)

水稻14畝、大豆32畝、イチゴ35㍍を栽培しています。

イチゴは、市場価格の変動が激しく安定していないので、収入保険への加入を検討しました。現在の経営規模で保険料などをシミュレーションしてもらおうと、イチゴを含む生産収入全体の補償なのに、水稻共済と大豆共済で支払っていた掛金と同じくらいだったので加入を決めました。

もちろん、いろいろなリスクに対応しているという補償内容にも納得しています。今後、経営規模拡大を図っていく中でも、安心できる「備え」になってくれると期待しています。

高設ベンチが全壊した東日本大震災のような災害を経験すると、近年多発する異常気象を「想定外」で片付けられません。備えである以上、補てんを必要とする際にはスピーディーな支払いを望みます。

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】



『個々の収入実績で補償』に着目

〈涌谷町吉住・農事組合法人 吉住米麦〉

組合長 浅野 邦夫さん(69)

水稻31畝、大豆38畝、大麦11畝、牧草5畝を耕作。

収入保険は、数ある保険の一つの選択肢と考えていました。補償の基準が県内平均ではなく、経営体ごとの過去の収入実績というところが気に入っています。一昨年、長雨の影響で大豆が減収した際は、品質も落ち、収入が大きく減少しました。この経験から、収入減少を補償する保険を望んでいたところでした。

構成員の高齢化が心配されるので、これ以上の面積は増やさず、品質向上を目指していきたいですね。まずは保険金をもらわないように頑張ります。

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】



『為替変動のリスク』への備え

〈大和町宮床・赤間農業開発株式会社〉

代表取締役 赤間 良一さん(60)

主食用米50畝と加工用米10畝、その他WCS用稲を3畝作付。
加工用米は甘酒生産に利用して、年間1万本製造しています。

販路は、主にJAや近隣のスーパーですが、最近は海外にも規模を広げています。収入保険に加入を決めたのも、**輸出時の為替変動による収入減少も補てんの対象になると説明を受けたから**です。また、年々増加する獣害に対して、収入が補てんされる制度が必要だと感じていたことも理由の一つです。

販売する米は、成分分析でSランクを受けた**良質米にこだわっていますので、農業者個々の販売収入を基準に補償されることはうれしいですね。**

農業経営のリスクには、自分の力では補いきれないものが多くあります。収入減少を補てんしてくれる収入保険に期待しています

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】



『個人ごとの収入が基準』は明確

〈登米市迫町・宮城県認定農業者組織連絡協議会会長〉

高橋 幸三さん(66)

水稻12畝を栽培するほか、牧草3畝、作業受託面積が5畝、
繁殖牛30頭を飼育しています。

宮城県認定農業者組織連絡協議会の会長と、全国認定農業者協議会の副会長を務めていることもあって、収入保険については早い段階から知ることができました。

収入保険は、**県平均の収量とか地域の平均価格ではなく、個人ごとの収入が基準となるので、明確に個々の実経営のマイナス部分を補てんしてくれる**と思い加入しました。

農業は、収量が平年並みであっても収入減少ということがあります。収入保険は**あらゆるリスクから農家経営を安定させる備えになる**ので、もっと力強くPRしてもいいと思います。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】



『農産物すべての補償を一本化』

〈岩沼市林・農事組合法人 林ライス〉

代表 田村 孝彦さん(62)

水稻60畝、大豆16畝、露地野菜2畝を栽培しています。

天候で農産物の収量・品質に影響するので、心配が絶えません。特に、野菜は価格低下の幅が大きく、加入できる補てん制度もなかったので不安を感じながら栽培していました。

収入保険は、**農産物すべてが補償の対象になるので、品目ごとの補償内容を理解する必要がなく、加入手続きをまとめることができ、至ってシンプル**ということで加入を決めました。

乾田直播などで労力軽減を図り、将来的には野菜部門の面積を増やしたいと考えていますが、この点でも収入保険は強い味方になってくれると考えています。

収入保険は新しい保険ですので、農業者から「加入していれば安心できる」という保険に成長してほしいです。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】



『社員の生活保障』に一役

〈石巻市福地・株式会社 宮城リスタ大川〉

代表取締役 大槻 稲夫さん(69)

水稻160畝(直播14畝含む)、大豆72畝、
鉄骨ハウス80畝で輪ギク、冬場は葉物野菜も栽培しています。

大川地区は、浜風が入り込む冷涼な環境のうえ、東日本大震災の津波で浸水耕地になりました。この環境の中で水稻は10畝当たり8俵を目標に栽培しています。採算ギリギリのところなので、今後の米価の変動は気になるところです。

また、自然相手の仕事なので、**近年の異常気象による災害も怖い**です。**基準収入の9割を下回った場合に補てんしてくれる収入保険は、社員やパートさんの生活保障のプレッシャーから解放してくれる**と思い加入しました。

万一に収入が減少した際は、速やかな保険金の支払いをお願いします。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】



『加入する制度を一本』にして簡潔に

〈大崎市鹿島台〉

矢走 恵美子さん(45)

水稻は主食用米20畝、飼料用米4畝、大豆14畝
施設野菜(ホウレンソウ、青ネギ)20畝を栽培しています。

近年発生する想定外の災害や、繁忙期などに人員が確保できないかもしれないなどの不安を感じていたのに加え、品目ごとに加入手続きをする必要がなく、まとめることができるので、収入保険への加入を決めました。保険料や保険金支払対象になるかどうか、青色申告の書類で計算されるというのは、税務申告＝収入保険への申請となるので、この点でも分かりやすいと思います。

これまで、大きな災害や病害に遭ったことはないですが、**備えを用意しておかないと、やはり不安です。**

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】



『労働力の確保』、 『新たな販路の開拓』に備え

〈角田市北郷・面川農場株式会社〉

代表取締役 面川 義明さん(65)

水稻36畝、大麦7畝、大豆7畝を栽培しています。

近年、天候が不安定で農業被害が甚大になっていることを危惧しています。安定生産を心掛けていますが、天候に左右されてしまうのが現状です。

地域では離農が進んでおり、受託する面積が増えています。労働力確保が課題になりますが、**限られた労働力の中で何かあったときや、新たな販路を開拓した取引先に何かあったなどに、収入保険は農家経営の安定にはもってこいの保険**と思い加入しました。

NOSA Iは昭和61年の水害、平成5年の大冷害の際に、農業経営継続の支えになりました。この信頼があるからこそ収入保険の実施団体になったと思うので、今後も期待しています。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】



『強い農村』のための 新たなセーフティネット

〈加美町中新田・有限会社 平柳カントリー農産〉

代表取締役社長 我孫子 弘美さん(67)

主食用米21畝、飼料用米を9畝、大豆は15畝、
エノキダケを年間500トﾝ生産しています。

以前よりは米価の低迷とエノキダケの価格に波があるため、経営に苦労しています。エノキダケの生産施設を改修するなどして生産性は上がっていますが、価格が下がっているため収入は増えていません。

「一農家」の経営から、雇用を確保できる「強い農村」に変化する時期になっています。収入保険は強い農村のセーフティネットだと思います。

収入保険の保険料は比較的安いと感じていますが、積立金は経営規模が大きくなるほど負担も増すので、借入や補助を自治体へ要望してほしい。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】



『経営体個々の実績で補償』が魅力

〈栗原市志波姫・農事組合法人 iファーム〉

代表理事 三浦 章彦さん(65)

主食用米を30畝、飼料用米6畝、大豆43畝、
キャベツ1畝を栽培しています。

近年、水稻も大豆も供給量が増え、値下がり傾向にあるのも心配です。

収入保険に加入を決めた理由は、**①補償の基準が経営体ごとの過去の収入実績、②品目を問わず収入全体で補償される、③掛金の全部が掛け捨てではない**などいくつかあります。

また、**キャベツは値ブレが大きいのですが、栗原が産地指定になっておらず、加入できる制度がなかった**というのも理由に挙げられます。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】



『安心して営農に取り組める』備え

〈仙台市泉区〉

永澤 太さん(64)

水稻を38畝栽培しています。

この他に田植え4畝、稲刈り6畝の作業を受託しています。

面積が増えれば売り上げも増えますが、コストが掛かり増しになることもあります。リスク管理を一から考え直し、「収入減少をいかにして食い止めるか」が重要だと考えています。

収入保険は、**さまざまな要因の収入減少に対応し補償も厚いので、「安心して営農に取り組める」と思い加入しました。青色申告で収入を審査されるのは、加入者自身が数字として確認できるので、分かりやすい制度だと思います。**

今後は営農規模の維持と法人化を視野に組織を整えていきたいと考えています。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】

収入保険

～加入者の声～



『収入全体が対象』にメリット

〈大崎市松山〉

寺田 守彦さん(64)

水稻を1畝、畑20畝でソラマメ、トウモロコシ、ピーマンなどを栽培しています。

勤めているため農業は土日のできる範囲を自分で行き、あとは作業委託しています。20畝の畑では、年間20～30品目程度を少量多品目で栽培しています。そのため1品目ごとの収入はそれほど大きくないので、**品目ごとに補償されるよりも、1年の収入全体が補償となる点が、わが家のような営農スタイルに合っていると感じました。**

収入保険の加入要件となっていることから、税務申告を2017年分から青色申告に移行しました。

NOSAIには、収入保険の加入推進を図るためにも、利点を説明しながら青色申告を進めていただきたいと思います。

【農業共済新聞2018年10月24日号掲載】



あらゆるリスクに備えるために

〈石巻市・農事組合法人エコルファーム〉

代表 後藤 嘉伸さん(48)

水稻33畝、転作大豆12畝、黒ニンニク用のニンニクを試験的に栽培しています。

「地域農業の発展と次代への営農継続」を目指し、農家3人で法人を立ち上げました。年々拡大する規模に対応するためには、収入の補償が欠かせません。

以前、収穫直前の台風で大きな被害があり、収入が大幅に減ったことがあります。出荷するまで何が起こるかわからないと痛感しました。不測の事態に備えておくことは、とても大切なことです。

加入は、**収穫物の収量減少だけではなく、販売価格の低下による収入減少など、あらゆるリスクから私たちを守ってくれる**から決めました。収入の補償があれば、女性の雇用を増やすほか、6次化や設備投資を進めることにも積極的になれる。何より、心に余裕ができます。

【農業共済新聞2020年3月3週号掲載】

『ケガや病気による収入減少も対象』が決め手

〈大河原町〉

跡邊 信吉さん(71)

水稻5.5畝、夏秋キュウリ、ソラマメ、ウメなどを露地栽培しています。



経営するうえで販売価格の変動による収入減少が一番の不安でしたが、収入保険は**収入全体が補償の対象**となるので、安心だと感じています。

加入の決め手は、**ケガや病気で収穫や出荷が間に合わず収入が減少した場合も対象となることでした。予期せぬ事態に備えられることは、大きな魅力です。**収入保険に加入すれば、栽培品目に関わらず保険料が一本にまとめられ、手間が省けて良かったです。

近年は台風や大雨などの自然災害が多発し、農地や農作物に甚大な被害が発生しています。これからの農業に、収入保険は必要な存在になっていくと思います。

【農業共済新聞2019年11月1週号掲載】

収入保険

～加入者の声～



新品目チャレンジの後押しに

〈大崎市松山〉

佐々木 勝敏さん(41)

露地2畝、ハウス5棟でズッキーニやネギ、ダイコンなど野菜を栽培しています。

作付けする野菜が加入できる補償制度がなく、不安の中で栽培していました。また、スタッフを数名雇用していますが、スタッフに何かあった場合に作業が回らなくなる不安や、増加する獣害にも悩まされていました。

収入保険は、**すべての品目が補償の対象となるほか、病気やケガで労働力が十分に確保できずに収穫が遅れて収入減少があった場合も対象になる**と聞き、迷わず加入しました。

収入保険に加入することで、経営のディフェンスは整ったと感じています。これからは新しい品目にチャレンジし、強気のオフェンスをしていきたいと思えます。

【広報紙「和み」2019年11月号掲載】

頻発する自然災害への備えに

〈山元町〉

佐藤 捨夫さん(83)

水稻1.5畝、イチジク40畝のほか、シュンギク、ユキナなど10品目ほどの野菜を栽培しています。



全国的に頻発する自然災害が一番の不安で、ニュースなどで農産物の壊滅的な被害を目の当たりにすると、他人事とは思えずにいました。

収入保険は、**品目を限ることなく、農産物すべての販売収入が補償の対象となるため**、被災後に廃業するという心配を打ち消してくれる素晴らしい保険だと思います。

健康のためにも農業に携わっていきませんが、将来的には息子への経営委譲を考えています。良好な経営状態で譲りたいと思っており、最悪の状態回避は収入保険の収入補填だと信じています。

【広報紙「和み」2019年11月号掲載】



保険金の支払いに満足 今後の経営も安心

〈美里町〉

涌井 良宣さん(61)

ナシ40畝を手掛けるほか、水稻5畝、大豆2畝、ニンニクやジャガイモなどの野菜を10畝栽培しています。

わが家のナシ園地は「豊水」の栽培に向いており、たくさん量がとれ味も好評ですが、既存制度の補償単価は一律で、実際の販売単価よりも下回っていることがほとんどです。2017年に発生した台風18号では多くのナシが落下しましたが、**既存制度では十分な補償が受けられず、経営を維持することが困難だと感じていました。**

収入保険は**自分の経営に沿って販売単価が設定できる**と聞き、すぐに加入を決めました。

昨年の台風19号などで収入が減少した分について、収入保険で保険金が支払われ満足しています。今年も3月下旬に降霜や低温の被害があり、今後の生育が心配ですが、収入保険のおかげで安心して栽培に取り組んでいけます。

【農業共済新聞2020年5月2週号掲載】

収入保険 ～加入者の声～



『幅広い品目の補償』が魅力

〈色麻町・株式会社 スマートアグリ庄子〉

代表取締役 庄子 智弘さん(35)

主食用米7.2畝、飼料用米を1.9畝、ネギ3畝を作付けするほか、タマネギ、キャベツを露地栽培しています。

幅広い品目の補償が加入の決め手です。これまでの制度は、加入できる品目や補償される期間が収穫前などに限られてましたが、**収入保険は収入全体を見て減少した分を補償するうえ、一年を通してあらゆるリスクに対応している点が魅力です。**保険金が支払われる基準も分かりやすいですね。

最近、全国各地で大規模な自然災害が発生し、さらに今年は新型コロナウイルスが流行しています。あらゆるリスクへの「備え」は重要だと感じています。

設備投資や新品目の導入など、農業経営のリスクを踏まえ、収入保険が新しい取り組みを後押ししてくれると期待しています。

【農業共済新聞2020年8月1週号掲載】

保管中の災害に備えるために

〈大崎市古川〉

坂井 美津男さん(69)

水田14畝で水稻8品種、転作田9畝で大豆を栽培するほか、味噌や米麴などの加工品を手掛けています。



異常気象が心配で、収穫できても品質や収量の低下につながりかねませんし、販売価格の下落も不安です。保管中に災害にあった場合の補償も必要だと考えていました。

収入保険は、**収量減少や品質低下、価格の下落、保管中の事故や盗難などによる収入減少に対応する**ので良かったです。加入要件となる青色申告を始めて20年以上なので書類の提供も苦にならず、最初は高いと思った保険料も十分な補償を受けるには必要な投資だと思います。

昨年は水稻と大豆で収量が減少し収入が減りましたが、保険金が支払われて安心しました。安定した経営を続けていきたいです。

【農業共済新聞2020年8月2週号掲載】



「個々の農業収入で補償」に安心感

〈大郷町・農事組合法人 DSファーム〉

代表理事組合長 佐々木 清隆さん(64)

水稻26畝、大豆24畝を作付けするほか、ネギ33畝を栽培しています。

規模のわりに栽培品目が少なく、天候による収穫量のばらつきや価格変動といったリスクに対応できずにいました。

収入保険は、収量減少だけが補償の対象ではなく、**個々の農業収入が補償の基準になっているため、経営の実態に沿っていることに安心感があります。**

昨年発生した台風19号では圃場近くを流れる吉田川が決壊し、収穫期を迎えていた直播栽培の「ひとめぼれ」や大豆が水没してしまいました。「足腰の強い営農」の必要性を痛感し、農地の復旧や新しい機械導入の資金調達等、次代へつなぐためにも収入保険が補充してくれると期待しています。

【農業共済新聞2020年4月3週号掲載】